



▲平成12年度に整備されたJR幌別駅前広場

には多額の費用がかかります。国や道の補助金を活用しても、市が支払う金額が大きいため、借金なしで賄おうとすると、ほかにしなければいけない事業ができなくなるおそれがあります。

また、借金なしで行ったとしたら、その年度の納税者だけが負担することになってしまいますが、学校や道路などはその後も利用することになりますので、将来、その施設を利用する市民の方も負担する方が公平だという考えも成り立ちます。

しかし、市債は市の借金ですから、後年度の財政運営に影響を及ぼさないように慎重に運用する必要があります。特に市債の償還額は、あらかじめ計算できるものから、財政状況を考慮して、無理のない利用をしなければなりません。

平成12年度末で、一般会計では272億8千261万円の市債残高があります。また、12年度の市債の償還額は13億5千134万円でした。



▲平成12年度に市債を活用して整備された『のぞみ公園』（桜木町）

特別会計の残高としては、学校給食事業特別会計で5千396万円、公共下水道事業特別会計で142億1千629万円、簡易水道事業特別会計で9千384万円となっています。これら全会計を合計した市債残高は、416億4千670万円です。

チェック7 特別会計の決算は？

市には、企業会計である水道事業会計（6〜7ページでお知らせします）を除き、給食や下水道など、特定の収入を特定の支出に充てて事業を行う6つの特別会計があります。

平成12年度には、介護保険特別会計が加わり、初めて予算を執行しました。その内容を説明しましょう。

介護保険特別会計は、2つの勘定に分かれています。保険料の賦課徴収や給付事務を行う『保険事業勘定』では、歳入が18億4千479万円、歳出が17億9千274万円となっています。居宅介護支援（ケアプランの作成）

などを行う『介護サービス事業勘定』では、歳入が約40万円、歳出が37万円でした。

介護保険特別会計へ、一般会計から3億2千68万円の繰り入れを行ったほか、国の政策として、高齢者の保険料について徴収しなかった部分があったため、介護保険円滑導入基金から2億8千475万円の繰り入れを行いました。

チェック8 市民1人当たりの決算額は？

平成12年度に、わたしたち登別市民は、平均してどのくらいの負担をしたのでしょうか。

市税収入の総額は、52億4千656万円でした。これを今年の3月31日現在の人口、5万5千77人で割り返すと1人当たり約9万5千円の税金を負担したことになります。

これに対し、市民1人当たりに使われたお金を単純に計算してみると、一般会計歳出額の217億4千380万円を、同じように人口で割り返すと、1人当たり約39万5千円の市の予算が使われた計算になります。

決算は、もう終わってしまった市の事務・事業の数字です。でも、決算の内容をしっかり調べることににより、これからの事務・事業の改善につながります。

また、財政的分析のほかに、市は、行政評価という手法を使った新たな点検方法、改善方法のシステムづくりを進めています。

万円を使いました。
◆平成12年度末現在高 9千587万円

◎介護給付費準備基金
介護保険の安定的な財政運営を目的とした基金です。
◆平成12年度末現在高 9千351万円

◎土地開発基金
公用地、公共用地、事業用代替地をあらかじめ取得し、事業を円滑に進めるために土地開発基金を積み立てています。
◆平成12年度末現在高 4億7千298万円

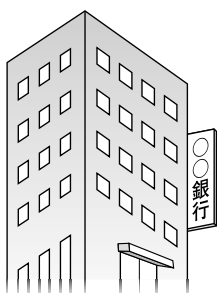
内訳

・積立金 1億7千764万円
・土地保有分 2億9千534万円
(土地面積：14万6千867平方メートル)

◎その他の基金と平成12年度末の現在高

◆墓地管理基金 1千482万円
◆新図書館建設基金 1億197万円
◆職員退職手当積立金 11億9千966万円

※基金残高の万円未満は切り捨て。



市の財政に関するお問い合わせ
財政課 (☎85) 1331